

Title	永井好信宛福澤諭吉書翰(一)
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.25, No.4 (1952. 9) ,p.22(455)- 22(455)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0022">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0022</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

民族のきはめて古い異族に對する汎稱であつたからである。ただ古書において蝦夷・熊襲などと併存してもちゐられてゐる場合のあるのは、古い觀念が分化せず、そのまま残存したり、或は本來の汎稱であることが忘れられて、後には或る特定の種族を示す名稱であるかのごとく、誤つて信じられた結果にすぎない。

### 永井好信宛福澤諭吉書翰 (一)

尙以時下御自重專一奉存候御閑之節は些御來談奉待候 以上  
○八月十二日之華翰拜見仕候時下尙酷暑益御清適奉賀候

明治七年十一月二三日慶應義塾に入社し、十二年に卒業した  
永井好信氏は、卒業後三菱氣船に入り次で日本郵船に移り、内  
航課長となり、更に東洋海上火災保險取締役等を歴任し、明治  
三五―四二年には慶應義塾評議員となつた有力な塾員であつ  
た。今回嗣子信二郎氏より福澤諭吉書翰(未發表書翰を含む)、  
慶應義塾關係資料等貴重資料の寄贈を受けた。未發表書翰は  
○益御清榮奉拜賀陳は過日暴風雨之節は早速御見舞として貴翰  
被下難有奉存候

小生事七月初旬よりレウマチスに罹り長々難治致候得共最早  
全快十日前より殆ど平生之通りに相成候乍憚御放念可被下候  
塾も相替事無之情況は時々濱野氏より申上候事ならん教員何  
れも盡力勉強會て舊に異らず是亦御安意可被下候右拜答申し  
述度早如此御座候

風は高台にて随分烈しく庭園之樹木吹倒し損害を蒙る尠なか  
らず候前後ながら尊宅も御同様御破損なれ共格別之事も無御  
座由目出度奉存候右拜答迄申上度早々頓首  
(明治十三年)十月十二日 福澤諭吉

(明治十六年)八月二十一日 永井君悟下 諭吉

永井好信様

(河北展生記)